

HAGI

萩

SUMMER ISSUE 2017

84

題字は吉田松陰筆跡



「アンティークジュエリーの魅力」

穂葉 昭江

ヨーロッパには、古代より人々が様々な想いを託してきた宝飾品の歴史があります。アンティークジュエリーといわれる100年以上前に作られた装身具は、美術工芸品としてその時代に生きた人々の豊かな感性とともに、日本には存在しなかった宝飾文化の素晴らしさを私たちに伝えてくれます。

19世紀、英国のヴィクトリア時代は、産業革命によってもたらされた技術の発達により、世界各地での宝石貴金属の発見や、古代遺跡の発掘があいつぎ、さらに台頭してきた資本家層の需要の増加に伴い、それまでにないほどの質と量の装身具が生みだされました。ジュエリーは、一部特権階級の富と権力の象徴から個人のものへと、さらに広く大衆に浸透していった宝飾史上極めて興味深い時代です。そしてこの時代に考案された技法やデザイン、身に付け方などは現代の私達が身に付けている装身具の基礎となっています。

当時、大英帝国に君臨し繁栄をきわめたヴィクトリア女王は、想いを寄せていたアルバート公と結婚し、九人の子供に恵まれ、「平和な家庭」の象徴として、またヨーロッパのファッションリーダーとして、重要な役割を果たしました。女王が愛した宝石やデザインが流行を作り、それがまたこの時代の特徴になっています。

1837年のヴィクトリア女王の即位後、平和と繁栄によってもたらされた富は、装身具の中でも金の宝飾品に代表されるようになりました。金が希少であったジョージアン時代、少量の金を効果的に用いるために生みだされたカラーゴールドやカンティエユ細工、レボゼ細工などの優れた技術を駆使して、立体感溢れる表情豊かな宝飾品が作られたのです。

またグランドツアーの影響でヨーロッパ各地のジュエリーが英国に持ち込まれ、イタリアのカメオやモザイク、スイスやフランスのエナメルが特に人気となりました。これらは鉄道網の発達により裕福な人々の旅行が盛んになるにつれ、流行に拍車がかかりました。そしてヴィクトリア時代の装身具の特徴をよく表したものに、あまり高価ではない素材を用いて、



ピンクパール&
カラーゴールドスイート
1830年頃 イギリス

当時の職人の技により魅力的に仕上げられた装身具があります。スコットランドのタータンチェックに合わせて作られたスコティッシュ、べっ甲に金銀を象嵌したピクウェ、古代より魔除けとして身につけられたジェット、繊細な細工のアイボリー、異国趣味を反映した虎の爪や昆虫、蝶の羽。さらにダイヤモンドの代用品として宝石と同じように細工されたマルカジットやカットスティール、ペーストなど、このような素材や技法のバリエーションの豊富さも魅力のひとつといえます。

そしてもう一つ忘れてならないものに、人々の個人的な感情や思い出を表現したセンチメンタルジュエリーと言われる世界があります。愛情を表現したものや、個人を偲んだものなど、ジュエリーを構成する全ての要素に固有の意味が込められ、独特の感情のやり取りが行われました。中でも宝石の頭文字を並べ単語を作る言葉遊びや花言葉に想いを託すメッセージジュエリーは、間接的な表現が時代の風潮とあいまって大流行となりました。

装身具は、社会環境やその時代の精神を反映する最も身近なものであり、様々な素材と技法を駆使して作られたアンティークジュエリーは、現代では同じものを再現することができないものも多く貴重な芸術品といえます。

アンティークジュエリーの魅力とは、当時のワークマンシップにより作られた品質の良さはもちろんですが、ジュエリーに込められた様々な想いや情熱に思いをはせ、作品を通してその時代を感じるといったところにもあります。優れた作品を欲する人と作る人、その両者の美意識から生まれた豊かな世界は、私達にジュエリーの本質を伝えてくれる歴史からの素敵な贈り物なのです。

本展ではジュエリー以外にも、ウェディングの装いや、英国の生活文化のひとつとして広く浸透しているアフタヌーンティーのテーブルセッティング、さらに「糸の芸術」といわれるレースなどもあわせ約300点の作品により華麗なる英国伝統文化をご紹介します。

(穂葉アンティークジュエリー美術館館長、本展企画監修)



リガードバドロックペンダント
1820～30年頃 イギリス



シードパールティアラ
19世紀初期 イギリス

作品はすべて穂葉アンティークジュエリー美術館蔵

花鳥画は見た目が100パーセント?

伊藤 紫織

花鳥画は文字通りの意味では花と鳥を描くものだが、花は植物全般、鳥はいきもの全般と見てもよい。牛、馬、鹿といった動物を描いて、貴重な食料を得た喜びを表し、以後の狩りの成功を祈る、旧石器時代のラスコー洞窟の壁画も広い意味では花鳥画の仲間といえる。

日本の花鳥画のルーツは他の多くの文化と同様に中国にある。花鳥は唐時代に独立した画題として成立するが、それ以前から鳥、魚、植物のかたちは盛んに表されていた。樹木は人物の添え物や山水の一要素としても描かれる。

生花の代わりに花の絵を飾り、本物の鳥の代わりに鳥の絵をながめる、花鳥画にはもともとそんな素朴な用途があっただろう。花や鳥を表すには色の美しさが重要であり、多色摺の木版画によって花鳥版画は大きく花開くこととなる。

江戸時代中期、伊藤若冲は鳥、花、虫、魚、貝等を鮮やかな色と細かい描写で表す「動植綵絵」(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)を残した。身近な花や鳥が描かれているので若冲の超絶技巧が際立つ。近年の若冲ブームの半分以上は花鳥画のわかりやすさによるのではないか。故事を知らないと意味が分からない人物画とは違って、花鳥画は見ればとりあえずキレイなことはわかる。琳派の花鳥画が根強い人気なものわかりやすいからだろう。

とはいえ、花鳥画にも意味はある。花が咲き乱れ鳥が舞い遊ぶ楽園の象徴なので、花鳥はそもそもめでたいのだが、具体的に吉祥の意味を持つ花や鳥の種類、組み合わせがある。享保16年(1731)に来日した中国人画家沈南蘋は精緻な描写と華麗な着色による花鳥画を流行らせ、その画風は若冲にも影響を与えた。南蘋の画風とともに中国由来のおめでたい画題が日本に広まり、花鳥版画にも流れ込んでいる。歌川広重「波上岩頭の鶴」(海の見える杜美術館蔵) fig.1を見よう。鶴は長寿を意味するだけでなく、中国で鳥の中で第一位の位とされる。一羽の鶴が波の打ち寄せる岩の上に立つと、朝廷の朝zhaoと潮chaoの音が近いので、一品の位に上り朝廷に出仕する「一品当朝」を意味する出世の画題である。歌川広重「白梅に綵帯鳥」(平木浮世絵財団蔵) fig.2の梅と綵帯鳥一羽の組み合わせも、長寿を表す綵帯鳥のつがいに眉meiと同音の梅を配して夫婦円満長寿を表す「齊眉双寿」に由来しているのだろう。

日本の文学である俳諧を伴う花鳥版画にも中国風の吉祥画題の組み合わせがある。「葉がくれて牡丹の花の姿かな」の句がある歌川広重「牡丹に蝶」(山口県立



fig.1



fig.2

萩美術館・浦上記念館蔵) fig.3は長寿で金銭的に恵まれることを意味する。牡丹の花は豪華であることから富貴花の異名があり、また八十歳の老人をさす耄の中国語の音dieが蝶と通じる。南蘋の画風を伝える画家がよく描いた牡丹と蝶の組み合わせを広重も取り入れたのだらう。乙二「ばらの花ちりぬる折か岡の家」を伴う葛飾北斎「黄鳥 長春」(島根県立美術館蔵) fig.4は一年中花が咲くことから長春花とも呼ばれる薔薇と黄鳥(高麗鶯)を描く。青空と雲を暗示するような背景は西洋風に見えるが、背地を藍や薄墨で塗り込めて空間を暗示することは南蘋由来の作品でも行われていた。

尾形光琳「燕子花図屏風」(根津美術館蔵)が『伊勢物語』「八橋」の「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるきぬるたびをしぞおもふ」に由来するように、花鳥画は文学に結びつく意味を持つことも多い。とはいえ意味がわからなくても花鳥画を楽しむことはできる。伊勢物語を知らなくても「燕子花図屏風」は美しい。それゆえに20世紀初頭のアメリカで日本の花鳥版画の大コレクションが形成されたり、浮世絵版画の技術によって伝統的な画題を西洋風の描写で表す小原古邨の花鳥版画が明治時代の終わりから輸出されて海外で好まれたりした。見た目です勝負できる花鳥画は国境を、時代を簡単に飛び越えるのである。

(尚美学園大学准教授)

fig1. 歌川広重 「波上岩頭の鶴」(海の見える杜美術館蔵)

fig2. 歌川広重 「白梅に綬帯鳥」(平木浮世絵財団蔵)

fig3. 歌川広重 「牡丹に蝶」(山口県立萩美術館・浦上記念館蔵)

fig4. 葛飾北斎 「黄鳥 長春」(島根県立美術館蔵)



fig.3



fig.4

プリティー♡プリント 江戸の花鳥版画展

2017年 9月16日[土] ▶ 10月22日[日]

休館日: 10月2日(月)・10月16日(月)
会場: 本館2階展示室

観覧料: 一般1,000(800)円、70歳以上・学生800(600)円

※()内は前売り及び20名以上の団体料金。※18歳以下と高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒は無料。※身体障害者手帳、戦傷病者手帳、精神障害者手帳をご提示の方とその介護者1名は無料。
主催: プリ♡プリント実行委員会(山口県立秋美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY山口放送)、美術館連絡協議会 後援: 山口県教育委員会、萩市 協賛: ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜



田中信行の茶室 流れる水 ふれる水

Flowing Water and Tactile Water

2017. 4. 8 [SAT] — 2018. 3. 25 [SUN]



田中信行 《流れる水 ふれる水》 2017年

左 寸法: 高さ200×幅65×奥行33cm 素材・技法: 漆、麻布/乾漆

右 寸法: 高さ65×幅37×奥行25cm 素材・技法: 漆、麻布/乾漆

田中信行の茶室 「流れる水 ふれる水」に寄せて

四畳半の茶室空間に壁立する冥^{くら}いかたち。すべての意味やエネルギーを取り込み、はてしなく膨張する宇宙の暗澹^{くら}を夢想させる昏さである。黒漆がつややかなこの外側のみのオブジェは、一見すると簡素でミニマルを志向したかたちだが、よく眼を凝らせば、シンプルとは相対する冗長と複雑さの過剰とも呼べるほど、プリミティブ（原初的）な混沌が漆黒の闇を透かして見えてくる。

それは、ただちに視覚情報の豊かさゆえの表象だが、たおやかな曲面の起伏に合わせて映り込んだ、外界の現象すべてのことだけを指しているのではない。むしろ、光の透明さのなかに暗影として残るなにものかの实在である。もっと言うと、近代的合理性では超克しえない内的な創造衝動の激しさと、緻密な手業すなわち技術の成熟の表徴としてのテクスチャー（材質感）の洗練とが、渾然一体となって表象される曖昧さとも、また消去しえぬ痕跡としてのパトス（情念）とも思われる。

もちろん、芸術の普遍的で本質的な特徴は、技術の熟練によってもたらされる造形的な美的効果にある。その形式的要素を抽象度の高い観念と結びつけて、田中信行は自らを漆のかたちに表現してきた。

具体的には、「まずデッサンに描かれたような凹凸のある表面を、発泡スチロールや粘土を用いて制作することから始まる。それを原型として、その上に糊漆で麻布を幾枚か張り重ね胎を作る。乾漆による胎にさらに漆を塗り、塗りと研ぎを繰り返した表面は、滑らかな面となっていく。そして漆が塗られ完璧に磨かれた表面はあらゆる光を反射しながら、あるいは溜め込みながら官能的に存在するようになる」というプロセスの表象だ。

なるほど、この手法で立ち上げられた彼のかたちは、作り手の抱くイメージが自在に造形されている。しかも、この造形行為には、見慣れない者にとって意味が容易に読み取れないような不定形の外面に象徴的意味を結びつけるという表現性があり、さらにこの表現性には、ねっとり温かみのある肌理^{きめ}や光沢といった、漆という素材特有のテクスチャーすなわち質料そのものの現前性への追究がうかがえるのである。

ところで、かたちについての解釈とその解釈によってかたちが帯びる感情的な価値というものは、個人はもちろん集団間においても多様であったりする。

そのため、田中が不定形のかたちへ意味付けした象徴性によって喚起される感情的価値が、つねに安定的に形式（既知の自然物や造形物）と結びつく（連想または構想される）のかという問題は生じるだろう。だがむしろ、このような概念としてかたちを認識することを超える想像力を、質料によって喚起しようとする表現性に田中の意思は向けられているように思われるのである。このたびの「流れる水 ふれる水」というタイトルと展示された作品からは、彼のこのような表現性が明確に読み取れる。

幸いにして、今回展示されている不定形のかたちは、昏い瀑布や落水のイメージと容易に結びつけることができる。しかしながら、田中は、たんに「流れる」水勢の一瞬を写し取ったようなかたちを立ち上げることだけで、「水」に意味付けされた象徴性を表そうとしたわけではない。それより、「水」という名辞に繋がるさまざまなイメージと、はじめは液体（樹液）であった漆へ「ふれる」というイメージを重ね合わせ、ともに一定の形を持たず流動性や溶融性があるという、質料（漆）そのものへの観察をおして知覚される、プリミティブな状態すなわち無為（自然のまま）への感受力を称揚しているのだ。つまりこれは、逆向きの想像上のプロセスの表象なのである。

酸化作用によって液体から固体へと硬化する漆を素材に、「塗りと研ぎを繰り返し」て制作を進め、行為の究極として得られた彼のかたちの表面には、つぎのようなパースが固着している。

「近代以降の彫刻概念では表面的という言葉は、非常に中身のない薄っぺらな作品という意味で用いられることが多いが、私は逆に表面から世界へ繋がろうとしている。表層から深層に至ろうとしている。表面のテクスチャーにこだわりながら、時間をかけて作り上げる密度のある美しい表面、あるいは官能的な表面の世界を、用途のある器物性ではなく、現代の建築空間に生きる造形表現として生かそうとしている」というものだ。

これがさらに深まり、彼が「漆膜」と呼ぶ、行為する身体と時間とが凝集した物質性の解釈へとつながって、それを生命の表象として捉える、新たな漆造形の道が開かれて行くことだろう。

石崎泰之（当館副館長）



雪月花 一月一

会期 ● 平成29年(2017) 8月8日[火]～9月10日[日]

普通展示
(浮世絵)

春の桜、秋の月、冬の雪に代表されるような、人々に親しまれた美しい四季折々の景観を意味する「雪月花」という言葉があります。「雪月花の時に最も君を思う」と白楽天の漢詩に詠まれて以来、雪月花は日本の文学や和歌の題材となり、また絵画において伝統的な画題として定着してきました。もちろん浮世絵にもこの画題を描いたものが多くあります。本展では秋の季節にちなんで、歌川広重の作品を中心に月景色や月下の美人図などをご紹介します。



歌川広重 「京都名所之内淀川」 横大判錦絵 天保5年(1834)頃

山口県と浮世絵

会期 ● 平成29年(2017) 9月16日[土]～10月15日[日]

普通展示
(浮世絵)

浮世絵には山口県に関連した作品が少なからず描かれています。錦帯橋などの名所風景、壇ノ浦での源平の合戦、海賊の毛剃九右衛門、萩藩が抱えた力士たち、さらには木戸孝允、伊藤博文、山県有朋など明治維新の元勳たち。本展では、山口県をテーマに武者絵や稗史絵、風景画、明治絵といったジャンルに分けてご紹介します。



葛飾北斎 「諸国名橋奇覧 すほうの国きんたいはし」
横大判錦絵 天保(1830～1844)初期

田中信行の茶室 流れる水 ふれる水

会期 ● 平成29年(2017) 4月8日[土]～平成30年(2018) 3月25日[日]

普通展示
(茶室)

田中信行 《流れる水 ふれる水》(部分) 2017年

山口県の伝統工芸

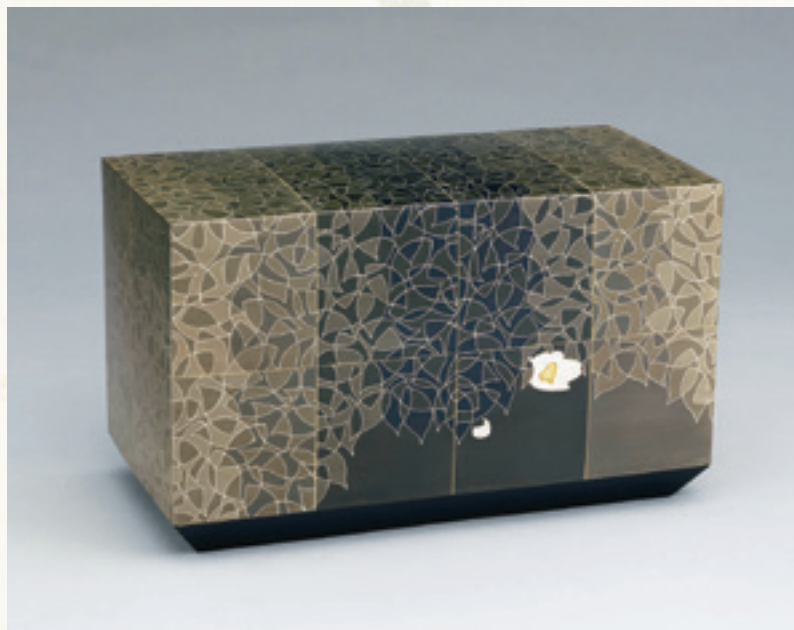
— 萩焼・赤間硯・金工・漆芸 —

会期 ● 平成29年(2017) 7月8日[土]～12月24日[日]

普通展示
(工芸)

わが国には、作り手の熟達した技と創意工夫により、古くより受け継がれてきた工芸があります。その技は多種存在し、いずれも素材・色・型・文様など形を作り出す諸要素の構成に、作り手の現代的な感覚が表現され、新しい伝統を紡いでいます。

本展覧会では、山口県の伝統工芸のうち、代表的な萩焼・赤間硯・金工・漆芸の作品を展示します。国が認定する重要無形文化財「彫金」ちようきん保持者、山口県指定無形文化財「萩焼」保持者、同「赤間硯」保持者の熟練の技をはじめ、現在を支え、次世代を担っていく作家の作品まで紹介します。



山本晃 きりぼめぞうがんはぎあわ ぼこ しうつばき 切嵌象嵌接合せ箱「白樺」 平成21年(2009) 幅25.3cm

ど き 土器の魅力

会期 ● 平成29年(2017) 8月8日[火]～12月24日[日]

普通展示
(東洋陶磁)

土器は、粘土を素焼きしたもので、素朴な質感が魅力です。やきものの中では700～1000度程の比較的低い温度で焼成されるため、硬く焼き締まるまで至らず、その柔らかさが土器ならではの魅力を作りだしているのでしょう。

また、仕上げの手法により、バラエティー豊かな一面も持っています。土器といえば褐色のものがよく知られていますが、炭素を器面に吸着させて黒くしたのものや、顔料を塗って赤くしたもの、複数の顔料による絵画的な表現も見られます。さらには、粘土紐を使った突帯や、道具を使って縄文や刺突文などを付け、別づくりのパーツを加飾するなど、様々な技法により立体としても見応えのあるものが多いです。

本展覧会では、中国の古陶磁や、土器を用いて表現活動を行っている日本の現代作家の作品も展示し、脈々と継がれる土器の流れを新しい視点で紹介します。



中国・新石器時代(龍山文化)紀元前30世紀～紀元前20世紀 高さ47.4cm
灰陶把手付三足甕

2017	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31																											
7	※1	普通展示(浮世絵) 歌川国貞の役者絵 (7/8~8/6)																																																								
		普通展示(東洋陶磁) 松村實コレクション—中国・朝鮮・日本の陶磁器— (~8/6)																																																								
		普通展示(陶芸) オブジェ—陶造形の潜勢力Ⅲ (~2018/3/11)																																																								
	※2	普通展示(工芸) 山口県の伝統工芸—萩焼・赤間硯・金工・漆芸— (7/8~12/24)																																																								
		特選鑑賞室 二代歌川広重 名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい (7/1~7/31)																																																								
		茶室 田中信行の茶室 流れる水 ふれる水 (4/8~2018/3/25)																																																								
	※1 普通展示(浮世絵): 北斎と広重 浮世絵に描かれた富士Ⅱ (~7/2)	愛のヴィクトリアン・ジュエリー—華麗なる英国のライフスタイル— (7/8~9/3)																																																								
	※2 普通展示(陶芸):茶陶の近現代 (~7/2)																																																									
		普通展示(浮世絵) 歌川国貞の役者絵 (~8/6)																																																								
		普通展示(東洋陶磁) 松村實コレクション—中国・朝鮮・日本の陶磁器— (~8/6)																																																								
	普通展示(陶芸) オブジェ—陶造形の潜勢力Ⅲ (~2018/3/11)																																																									
	普通展示(工芸) 山口県の伝統工芸—萩焼・赤間硯・金工・漆芸— (~12/24)																																																									
	特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 両国花火 (8/1~8/31)																																																									
	茶室 田中信行の茶室 流れる水 ふれる水 (~2018/3/25)																																																									
	特別展示 愛のヴィクトリアン・ジュエリー—華麗なる英国のライフスタイル— (~9/3)																																																									
8		普通展示(浮世絵) 雪月花 一月一 (~9/10)																																																								
		普通展示(東洋陶磁) 土器の魅力 (~12/24)																																																								
		普通展示(陶芸) オブジェ—陶造形の潜勢力Ⅲ (~2018/3/11)																																																								
		普通展示(工芸) 山口県の伝統工芸—萩焼・赤間硯・金工・漆芸— (~12/24)																																																								
		特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 両国花火 (8/1~8/31)																																																								
		茶室 田中信行の茶室 流れる水 ふれる水 (~2018/3/25)																																																								
		特別展示 愛のヴィクトリアン・ジュエリー—華麗なる英国のライフスタイル— (~9/3)																																																								
	9		普通展示(浮世絵) 雪月花 一月一 (~9/10)																																																							
			普通展示(東洋陶磁) 土器の魅力 (~12/24)																																																							
		普通展示(陶芸) オブジェ—陶造形の潜勢力Ⅲ (~2018/3/11)																																																								
		普通展示(工芸) 山口県の伝統工芸—萩焼・赤間硯・金工・漆芸— (~12/24)																																																								
		特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 猿わか町よるの景 (9/1~9/30)																																																								
		茶室 田中信行の茶室 流れる水 ふれる水 (~2018/3/25)																																																								
※3		特別展示 愛のヴィクトリアン・ジュエリー—華麗なる英国のライフスタイル— (~9/3)																																																								
		特別展示 プリティー♡プリント 江戸の花鳥版画展 (9/16~10/22)																																																								

休館日 ★ イベント ■ 記念講演会 ● ガラリー・ツアー ● プレミアムフライデー・ギャラリー・ツアー ■ ガラリー・トーク

★ イベント

「愛のヴィクトリアン・ジュエリー—華麗なる英国のライフスタイル—」関連イベント (事前申込制)

ハンドリング・セミナー

日 時 ● 7月22日 [土] 15:00~16:00
講 師 ● 穂葉昭江 氏 (穂葉アンティークジュエリー美術館館長、展覧会企画監修)
参加費 ● 3,000円 (展覧会もご覧いただけます)
会 場 ● 陶芸館多目的室
定 員 ● 16名 (受付先着順)
対 象 ● 小学生以上 (ただし小学生は保護者の同伴が必要)

親子でオリジナルアクセサリーを作る

日 時 ● 8月5日 [土] ① 10:30~12:00 ② 13:30~15:00
講 師 ● 佐伯和章 氏 (彫金作家)
参加費 ● 500円
会 場 ● 陶芸館多目的室
定 員 ● 各回8組16名 (受付先着順)
対 象 ● 小学生以上、保護者と2名1組でお申し込みください。

アフタヌーンティー・セミナー

日 時 ● 8月19日 [土] 14:00~16:00
講 師 ● 穂葉昭江 氏 (穂葉アンティークジュエリー美術館館長、展覧会企画監修)
坂本三佳 氏 (日本紅茶協会シニアインストラクター)
参加費 ● 4,000円 (展覧会もご覧いただけます)
会 場 ● 陶芸館多目的室
定 員 ● 16名 (受付先着順)
対 象 ● 小学生以上 (ただし小学生は保護者の同伴が必要)

【関連イベントの申込方法】

参加者全員の氏名・年齢、代表者の住所・電話番号を、電話(0838-24-2400)にてイベント係へお申し込みください。

アート・フェスティバル2017

子どもから大人まで楽しめるワークショップなど無料イベントが盛りだくさん!
日時 ● 8月6日 [日] 9:00~16:30

■ 記念講演会 (聴講無料 / 当日受付先着順) いずれも講座室 (座席数84席)にて行います。

日時 ● 7月22日 [土] 13:30~14:30
講師 ● 穂葉昭江 氏 (穂葉アンティークジュエリー美術館館長、展覧会企画監修)
演題 ● 「アンティークジュエリーの魅力」
日時 ● 9月16日 [土] 13:30~15:00
講師 ● 伊藤紫織 氏 (尚美学園大学 准教授)
演題 ● 「花鳥画から花鳥版画へ」

● ガラリー・ツアー (担当学芸員による特別展示作品解説)

「愛のヴィクトリアン・ジュエリー—華麗なる英国のライフスタイル—」
日時 ● 7月16日 [日]、7月23日 [日]、7月30日 [日]、
8月6日 [日]、8月20日 [日]、8月27日 [日]、9月3日 [日] 11:00~12:00
「プリティー♡プリント 江戸の花鳥版画展」
日時 ● 9月17日 [日]、9月24日 [日] 11:00~12:00

● プレミアムフライデー・ギャラリー・ツアー

(毎月最終金曜日に開催する担当学芸員による特別展示作品解説)
「愛のヴィクトリアン・ジュエリー—華麗なる英国のライフスタイル—」
日時 ● 7月28日 [金]、8月25日 [金] 15:30~(30分程度)
「プリティー♡プリント 江戸の花鳥版画展」
日時 ● 9月29日 [金] 15:30~(30分程度)

■ ガラリー・トーク (担当学芸員による普通展示作品解説) いずれも11:00~(30分程度)

7月 8日 [土] 歌川国貞の役者絵
8月 12日 [土] 雪月花 一月一
8月 26日 [土] 土器の魅力
9月 9日 [土] オブジェ—陶造形の潜勢力Ⅲ
9月 23日 [土] 山口県と浮世絵

※ イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。
※ ガラリー・ツアー、ガラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。

■ 交通アクセス

【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約70~95分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】 【萩・石見空港から】

- 萩短鉄タクシー(乗合タクシー)約70~80分 (利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

- JR萩駅から萩循環まゐるバス(西回り)約30分
- JR東萩駅から萩循環まゐるバス(東回り)約30分
- JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

